

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていることをお書きになって気軽に寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一〇二 白根市大字白根二二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



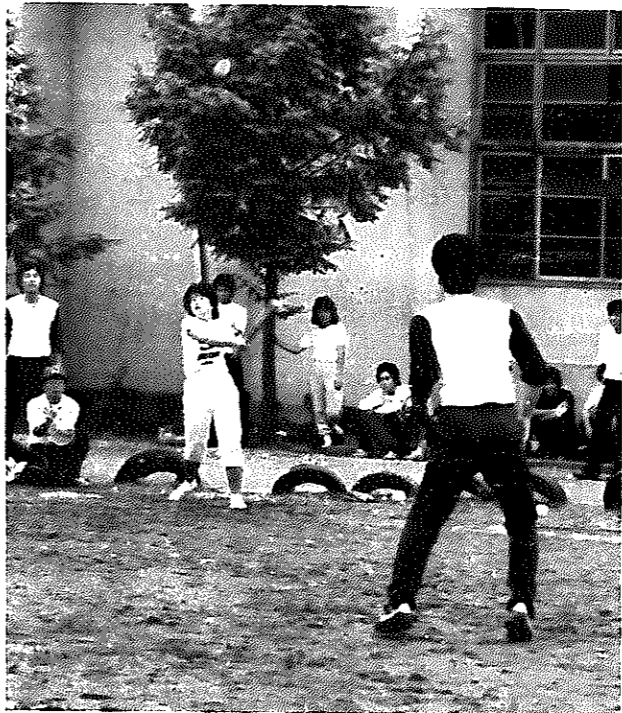
俳句

残寒の妻職探し背をまるめ 渡辺 勤
水仙を活けて一人客を待つ 玉木 長吉
川柳 着飾った女のクシャミ角がない 吉川 彰
北風にクシャミがねだる卯酒 吉川 末吉
土俵見て生活を立てている行司 米野 光雄
喜びの至廻す祝酒 渡辺 ミヨ
時計の針廻して罪を正すまい 今井 七郎
バス停の歩道話の吹き溜まり 今井 タエ
定年にひねもす一服する優雅 岡村 清
歩道から転げて人生無駄にする 織田 セツ
御在位の噂へクシャミする陛下 後藤 マサノ
歩道橋スカートの裾気にかかり 佐藤 トミノ
尻餅をついた歩道の堅いこと 佐藤 ヨキ
名を告げぬ親切紙面を借りて謝す 高橋 祐四郎
腕を組むカップル別染んだ歩道 竹石 甚五

人々とのつながり

桑原信恵さん(小蔵子・会社員・21歳)

昨今「いじめ」が大きな社会問題になっている。この問題は、地域の中で人と人とのつながりが薄くなっていることと関係が...



連帯の輪を広げるために、さまざまな行事が行われています(新飯田地区部対抗ソフトボール大会から)

今、若夫婦が増え、アパートがたくさん出来、知らない人が多くなってきた。「おはよう」「こんにちは」と、あいさつを交わすことすら忘れてしまっているのではないのでしょうか。確かに人間関係は煩わしいものでも、「遠い親せきより近くの他人」という言葉があるように、いざというときに助け合える人...

総体施設は市民の力が発揮できる場

半間芳一さん(西笠巻新田一・団体職員・47歳)

田園都市「白根」も時代の移り変わりで、工業団地が出来たり、住宅団地が出来たり、緑のじゅうたんが様変わりをしています。また、人口も少しずつですが増え続けてきて、都市化現象に向かっています。四十万都市「新潟」に近い本市は、米、野菜、果物の供給地としても重要で、農業の振興と地場産業の発展する所だと思えます。その活力ある白根市を魅力あ...

1/21/21/21/21

地域の人と心つながる旅行は最高

青木きよ子さん(大通一丁目・主婦・59歳)

実年の熟女ばかり、十四、五人のグループの泊旅行に招待されて、出かけてみました。農村では三世同居があたりまえで、還暦を過ぎてもお姑さん、お嫁さん、孫と、おおせいの家族でにぎやかな、そして忙しい毎日の繰り返しです。今日はやはり「命の洗濯」と、朝早くと迎えるマイクログラスに乗り、普通の団体旅行では考えられない、見学なし、お参りなしの宿屋へ直行コース。のんびりの「互久楽湯治」でした。私の耳には暗号のような「シベロン、ゴレンドン」と屋号...

地域の絆を通り

義賊の出生地と言われる「鼠新田」

東樹友次さん(鯉潟一丁目・無職・73歳)

大畑、瀬ヶ通(以上大郷地区)、区)と、動物の名のついた一風変わった地名があるとは珍しい。

ワ。私はただ見とれてるばかりで、まさに龍宮城の浦島太郎の心境です。底抜けに明るい熟女の同窓会に、うらやましく思うばかりでした。同じ仕事、同じ趣味を持つ気の知れた女ばかりの一夜は、もう一泊も二泊もほしいと残念がることしきりでしたが、帰りの日暮れどきの車中では「やっぱりわが家がいちばん」と本音が出る始末。地域のコミュニケーションには、こんな旅行が最高ですネ。

「鼠小僧次郎吉」という江戸時代の義賊の出生地と言われているが、私もその鼠新田に生まれた一人として、いささか地名の起こりに気を引かれる。弓張りちようちん、おせんなどに「鼠新田」と、父が書いた記憶がある。筑波大教授 榎根 勇著「越後平野の千年」の中に、道鴻、鼠鴻とあるのに刺激を受けて、小林 存著「新潟県内地名新考」を見たところ、「鼠島」のほかには記載されていない。「更正図」によろやく「大字下八枚字鼠新田」の地名を発見した。神明宮の創建からすると、三百年前より部落が形成されていたとだけは判明した。が、偶然にも、所沢市から「鼠新田」の地名の照会状が舞い込んでいたとは.....

短歌

大寒に春思わせる日だまりに 大地の匂い愛おし一時 大野タケノ
凍てつける道をつたいて着く家の窓に揺らめく雛の灯 中村 京



旧茨曾根小学校

6年生のときの運動会で

私の思い出 昔のわが街



語る人 中島 茂さん (庚・学生・21歳)

兄弟のように仲よく 楽しい時を送る

私にとって、白根でいちばん印象深い場所は、なんといっても木造の旧茨曾根小学校です。今はすばらしく近代的な建物に変わってしまいましたが、私は6年間、その小学校で自由奔放に過ごすことができました。

小さな学校でしたが、全生徒がみんな兄弟のように仲がよく、毎日、和気あいあいと楽しい時を送れました。

卒業する時は、いつでも訪れようと思っていましたが、数年前、取り壊されてしまいました。建物が古く、しかたのないことですが、私を含め多くの人々の母校だった小学校がなくなってしまったのは、ほんとうに悲しい出来事でした。

現在、帰省するたびに以前の小学校の跡地を通ります。当時は非常に大きく見えた学校も、いざ建物がなくなると、なんて狭い所だったんだろうと、同級生や恩師の顔を思い浮かべながら回想すると、いつも胸が熱くなります。

早く卒業証書を手にし、白根市民のお役に立ちたいと思います。